


 書評

本郷利憲，廣重力，豊田順一 監修
小澤澁司，福田康一郎，本間研一，大森治紀，大橋俊夫 編
標準生理学 (第6版)

板東武彦

コアカリキュラム，CBTを念頭においた付録も充実させ，欧米の教科書にも比肩する良書

本書は20年間で5版を重ねた名著であり，まさに標準的な生理学教科書としての地位を確保してきた。欧米の教科書にすぐれたものが多いなかで，わざわざ日本で教科書を作ることに意味があるのかと思う反面，やはり自分の国で作られた優れた教科書があるということは誇らしいことである。

1人の著者が書いた教科書は全体の統一性に優れるが，やはり得意分野とそれ以外で内容に差が出てしまう。本書は分担執筆であり，各々の分野で，一流の著者が分担することにより，広い範囲で濃い中味を持つことができた。一方で，分担執筆の本の統一性を保つことは非常にむずかしい。著者の努力もさることながら，編集者の優秀さと努力を高く評価したい。

読みやすさは編集者の腕の振るいどころであるが，本書はその点でも成功している。分担執筆の常として分量が多くなると，読む側にとっては，負担が大きくなる。本書では，専門的な内容はadvanced studiesとして分け，多くの図を入れることにより読みやすさを確保している。また章のおわりに「学習のためのチェックポイント」を置いている点，別冊付録の臨床問題を参照させている点など，欧米の優れた教科書と同様の工夫がなされていることも評価したい。

本書は詳しすぎると言われることがあるが，このことは編集者もよく承知しており，序になぜそうなのかを説明している。生理学は医学の中では珍しく，「考える」ことを基本とする学

問である。そうは言っても，物理学とは異なり，医学や生物学では，考える材料がどうしても必要である。記述が簡単すぎて，考えようがない教科書もたくさんあり，丸暗記にはよいかもしれないが，それでは知識が身につかない。この程度の分量はやむを得ないと思われる。多少，読むのに時間がかかるかもしれないが，この方が記憶に残るという点で，コストパフォーマンスはよい。

内科は「ベッドを持った生理学」といわれるように，生理学の知識が身についていると，臨床での勉強に有利である。先に述べたように，読みやすくする工夫が随所に施されているので，分量の割には読みやすい。多分，重大な欠点は，値段であろう。最近カラー印刷もコストが安くなり，数千円の教科書が珍しくない。もう少し価格を下げられないかと思う。学生が買いやすいというのも大切な要素であろう。

本書の新しい特色は，別冊付録としての臨床問題集である。欧米の教科書では珍しくないが，日本のコアカリキュラム，CBTを念頭においた問題であり，学習に便利であろう。問題の質にはばらつきがあるが，この種の問題を作ることはきわめてむずかしい。その中で，比較的良問をそろえ，本文との参照にも工夫がみられる。

全体として，本書は新しい進歩も取り入れ，日本の標準的な生理学教科書としての地位を今後も維持していくことが確実な良書である。(新潟大理事，副学長，医歯学系教授・統合生理学)

●B5 1,176頁 2005 定価12,600円(本体12,000円+税) 医学書院